

# 国語科学習指導案

令和8年6月11日(木) 学習指導Ⅰ 第6学年1組(6年WS) 指導者 前原 聡

【単元】「見て気付く」読みをして、クラムボンの正体を考えよう(『やまなし』『イーハトーヴの夢』光村図書6年)

考察	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力等	学びに向かう力, 人間性等
育成を目指す資質能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 比喩や反復などの表現の工夫についての知識及び技能 ((1)ク)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり, 表現の効果を考えたりする能力 (C(1)エ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 言葉がもつよさを認識するとともに, 進んで読書をし, 国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする態度</li> </ul>
子どもの実態	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全体像を具体的に想像する際に, 直喩が表している登場人物や場面の様子に着目できる。</li> <li>・ 隠喩も比喩の一種であるという理解と隠喩に着目して, 場面の様子を想像することに弱さがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 叙述を基に登場人物になりきり, 登場人物が五感で感じたものを考え, 人物像を具体的に想像できる。</li> <li>・ 叙述を基に登場人物や場面の様子を考え, 物語の全体像を具体的に想像することに難しさがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読書を通して, 他者の経験を追体験でき, 現実であるかのように味わえる言葉のよさを認識している。</li> <li>・ 読書を通して, 幻想的な場面を味わえる言葉のよさを認識しているとは言えない。</li> </ul>
価値	<p>・ 本単元における言語活動は, 『やまなし』を読み, 具体的に想像したことを聞き合いながら, クラムボンの正体を自分なりに考える活動である。『やまなし』は, 作者の造語や独特なオノマトペによって描かれる, 幻想的で神秘的な世界が魅力の作品である。特に, クラムボンの正体は作中では明言されておらず, 解釈は読者に委ねられている。『やまなし』を読み味わうために, 「私」が眺める二枚の幻灯に写る「親子のかに」がしたことや言ったこと, 小さな谷川の底の情景などの場面の様子を具体的に想像するという「見て気付く」読みを働かせる。クラムボンの正体を自分なりに考える中で, 場面の様子を対比したり比喩に着目したりしていく。特に, 小さな谷川の底の情景は隠喩によって描かれており, 隠喩に着目することで具体的に想像でき, 比喩の理解を広げられる。このように, 具体的に想像したことを聞き合うことで, 互いの想像を楽しみながら, 幻想的で神秘的な世界を描く言葉のよさを認識できるようになる。</p> <p>・ 小さな谷川の底の情景は「光のあみ」や「ラムネのびんの月光」などの隠喩によって描かれている。隠喩を直喩に直して比較することによって, 小さな谷川の底の情景を表す様々なモノや色彩に着目するため, 隠喩も比喩の一種であることを理解できるとともに, 比喩に着目して, 場面の様子を想像できる。</p>	<p>・ 二枚の青い幻灯として, 五月と十二月の小さな谷川の底の情景が対比的に描かれている。「見て気付く」読みによって, 「親子のかに」の行動を表す表現やそれぞれの場面の情景描写に着目するため, 具体的に想像した五月と十二月の場面の様子を対比するとともに, それぞれの場面の特徴を明らかにでき, 小さな谷川の底を写した幻灯を「私」が眺めているという物語の全体像を想像できる。</p>	<p>・ 作者の描く世界は幻想的で神秘的であり, 読者が読み味わう世界は一樣ではない。互いに想像した場面の様子の差異を認めることによって, あらためて叙述や宮沢賢治の伝記に着目するため互いの具体的な想像を広げたり深めたりできるとともに, 幻想的な場面を味わえる言葉のよさを認識できるようになる。</p>
見方・考え方	物語に描かれる登場人物や場面の様子と言葉, 言葉と言葉との関係を捉えたり問い直したりすることで, 言葉への自覚を高めること。		
今後の学習	「『海の命』の世界を読み味わおう(『海の命』光村図書6年)」において, 人物像や物語の全体像を具体的に想像して感じたり考えたりしたことを基に, 登場人物の考え方や生き方についての自分の考えを広げることにつながる。		

指導と評価の計画

目標	「見て気付く」読みを働かせて感じたり考えたりしたことを聞き合うことで、物語の全体像を具体的に想像することができる。		
議題	自分なりにクラムボンの正体を考えるために、『やまなし』を読み、具体的に想像したことを聞き合う活動		
評価 規準	(①知・技) 比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。( (1)ク) (②思・判・表) 「読むこと」において、人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。( C(1)エ) (③主体的態度) 粘り強く『やまなし』の全体像を考え、今までの学習を生かして具体的に想像したことを聞き合おうとしている。		
過程	時間	学習活動	指導上の留意点
つか む	1	○『やまなし』を読み、初発の感想を書き 問いを立て、学習課題をつかむ。 学習課題 「見て気付く」読みをして物語を味 わい、クラムボンの正体を考えよう	○本単元の学びにおいて、「見て気付く」読み を働かせる必要性を感じられるように、みん なで考えたい問いを集約し、解決するために 働かせる言葉へのこだわり方を想起する機会 を設定する。
	1	○「見て気付く」読みを働かせる言葉への こだわり方を理解し、五月の前半部を読 む。	○五月の場面の様子を具体的に想像できるよ うに、具体的に想像した場面の様子を書き込む 本文シートを用意する。
ふ か め る	3	○「見て気付く」読みをしたり、場面の対 比をしたり、宮沢賢治の人物像を考えたり して、作品を味わう。 (本時3 / 3 時間目)	○隠喩が表す情景に着目して具体的に想像でき るように、直喩に直して比較する機会を設定 する。 ○場面の対比をしたり、宮沢賢治の人物像を考 えたりできるように、五月と十二月の場面の 様子を対比したり、宮沢賢治の性格や考え方 が分かる叙述を抜き出したりするロイロノ ートのテキストを用意する。 ○物語の全体像を考えられるように、具体的に 想像した場面の様子と、場面の対比や宮沢賢 治の人物像との共通点や相違点を見付ける機 会を設定する。
	1	○これまで読み味わってきたことを基に、 自分なりにクラムボンの正体を考える。	○様々な叙述を基に、クラムボンの正体を考 えられるように、グループで考えをまとめる機 会を設定する。
え ふ る り か	1	○自分なりに考えたクラムボンの正体を聞 き合い、単元の振り返りをする。	○「見て気付く」読みのよさを感じられるよ うに、第1時と第7時で自分なりに感じたり考 えたりしたことの変容を捉えるとともに、そ の要因を振り返る機会を設定する。
			評価規準<評価方法(観点)>※太字は「記録に残す評価」 ◇「見て気付く」読みを働かせて、問いを解決 していこうとする思いを発言したり記述した りしている。 <発言・振り返りシート③> ◇叙述を基に、具体的に想像した五月の場面 の様子を記述している。 <本文シート②> ◇隠喩により表される情景を明らかにして、具 体的に想像した場面の様子を記述している。 <本文シート①②③> ◇五月と十二月の場面の対比により気付いた様 子の違いや『イーハトーヴの夢』の叙述を基 に考えた宮沢賢治の人物像を記述している。 <テキスト②> ◇場面の対比や宮沢賢治の人物像を参照しなが ら、具体的に想像した場面の様子を基にして 「私」が川底を眺める物語の全体像を記述し ている。 <本文シート①②③> ◇具体的に想像した場面の様子を伝えながら、 クラムボンの正体について発言したり記述し たりしている。 <発言・振り返りシート②> ◇場面の様子を具体的に想像するよさについて 記述している。 <振り返りシート③>

## 本時の学習（5／7時間目）

ねらい 『やまなし』において「見て気付く」読みを働かせたり、モノや色彩の対比をして感じたり考えたりしたことや作者の人物像などを結び付けたりすることを通して、「私」が川底を眺めている物語の全体像を具体的に想像することができる。

評価規準 場面の対比や宮沢賢治の人物像を参照しながら、具体的に想像した場面の様子を基にして、「私」が川底を眺める物語の全体像を記述している。  
 <本文シート①②③>

学習活動と子どもの意識	指導上の留意点
<p><b>1 本時のめあてをつかむ。</b></p> <p>・前は十二月を「見て気付く」読みをしたけれど、「月光のにじがもかもか集まりました」のところがよく分からなかったから、もう一度想像して、十二月の場面を読み味わいたいな。（目的意識）</p>	<p>○『やまなし』を読み、場面の様子や物語の全体像を具体的に想像する意欲を高められるように、前時の振り返りシートを見返すよう促すとともに、本時で考えたい問いを問いかける。</p>
<p>自分のめあて：「やまなし」に月光のにじがもかもか集まる様子を詳しく想像して、十二月の場面を読み味わおう</p>	
<p><b>2 「見て気付く」読みをしたり、場面の対比をしたり、宮沢賢治の人物像を考えたりして、作品を味わう。</b></p> <p>・『やまなし』の独特の表現は、比喩が表すことを考える読みと同じで、別の表現と比べるとよかったね。「もかもか」を「ゆらゆら」と比べると、にじんんでいる感じがするから、月光がぼやけている感じかな。</p> <p>・十二月の後半を音読したら、「親子のかに」が見上げているものは、周りが月光でぼやける「やまなし」と青い波だと想像できたぞ。</p> <p>・五月と十二月で、川に飛び込んだものが「かわせみ」と「やまなし」で違うと聞いたよ。「かわせみ」は兄弟で見たけれど、「やまなし」はお父さんも見て教えてもらえるから、恐ろしさが和らいだのだね。</p> <p>・『やまなし』は「私」が幻灯を見ているというお話だったな。川底から見上げている「親子のかに」の幻灯を、「私」が眺めていると考えることができるな。</p> <p>・宮沢賢治の人物像を考えた友達から、宮沢賢治は生き物と一緒に生活することを望んでいた人物だと教えてもらったよ。「私」も、宮沢賢治のように「親子のかに」を見守っているのだろうか。</p> <p>・「月光のにじがもかもか集まりました」から、「親子のかに」が川底から水面を眺めている様子を写した幻灯を、「私」が見守る様子を想像することができたぞ。五月の幻灯も同じように見守っているのではないかな。（目的を達成した意識）</p>	<p>○本時で考えたい問いを追究するための言葉へのこだわり方に気付けない場合には、本時の取組の見通しをもてるように、これまで働かせてきた言葉へのこだわり方の一覧が表示された掲示物を参照するよう助言する。</p> <p>○叙述を基に部分的に想像している子どもが、複数の叙述を結び付けて、場面の全体を具体的に想像できるように、場面全体を音読して、着目している叙述とその他の叙述とのつながりを見いだすよう助言する。</p> <p>○具体的に想像した場面の様子と、対比して明らかになったことを結び付け登場人物の行動の理由を具体的に想像できるように、五月と十二月の場面の様子を対比し、気付いたそれぞれの場面の相違点をグループで聞き合うよう促す。</p> <p>○それぞれの言葉へのこだわり方を働かせてきた子どもが、「私」という語り手の存在に着目できるように、本文の冒頭と末尾を音読するよう助言し『やまなし』の語り手を問いかける。</p> <p>○宮沢賢治の人物像から「私」の人物像を類推できるように、『イーハトーヴの夢』を読んで考えた宮沢賢治の人物像を、グループで聞き合うよう促す。</p> <p>○五月や十二月の場面の様子を具体的に想像することに終始する子どもが、「私」が自然を慈しむように幻灯を眺めている物語の全体像を想像できるように、二枚の幻灯の共通点を見付けるよう助言するとともに、幻灯を眺める「私」の様子を問いかける。</p>
<p><b>3 本時の学習の振り返りをする。</b></p> <p>・今日は、これまで読んで想像してきたことと、友達から聞いた五月と十二月の対比や宮沢賢治の人物像とを結び付けて、物語の大きな流れを捉えることができたよ。詳しく想像することができたから、次はいよいよクラムボンの正体を考えていきたいな。</p>	<p>○次時への見通しをもてるように、振り返りの観点「心に響いた友達の気付きや考え」「次回取り組みたいこと」を提示して、振り返りシートに記述するよう促す。</p>